

# 全農薬通報

No. 352

2026年（令和8年）3月6日

## 目 次

### ◎主な行事予定

- ・全国農薬協同組合
- ・植物防疫関係団体

### ◎組合からのお知らせ

- ・農薬工業会賀詞交歓会
- ・日本植物防疫協会主催シンポジウム
- ・全農薬・安全協各地区会議

### ◎行政からのお知らせ

- ・クロルピリホスを含む農薬の回収について
- ・農薬の使用に伴う事故及び被害の発生状況について
- ・国内産農産物における農薬の使用状況及び残留状況調査の結果について

### ◎全農薬ひろば

- ・ロウバイ



全国農薬協同組合



〒101-0042 東京都千代田区神田東松下町 23-1 Yunuo ビル 3F

TEL：03-3254-4171

FAX：03-3256-0980

<https://www.znouyaku.or.jp> E-mail：info@znouyaku.or.jp

## 全農薬の主な行事予定

### 「全国農薬協同組合」

2026年（令和8年）

- 4月27日(月) 15:30~17:00 第1回役員選挙準備委員会
- 4月28日(火) 10:30~17:00 第321回理事会（執行部協議会、各委員会）
- 7月16日(木) 10:30~12:00 第2回役員選挙準備委員会
- 7月16日(木) 13:30~17:00 安全協常任幹事会・情報交換会
- 9月18日(金) 10:30~17:00 第322回理事会（執行部協議会、各委員会）
- 10月上旬 第106回植物防疫研修会
- 10月22日(木) 10:00~12:00 監査会(理事長、監事)
- 10月中旬 第13回農薬安全コンサルタントリーダー研修
- 11月11日(水) 13:00~15:00 第323回理事会
- 11月12日(木) 10:30~12:00 第61回通常総会、第324回理事会
- 11月12日(木) 13:00~19:30 第49回安全協全国集会・情報交換会
- 12月10日(木) 13:30~17:00 第325回理事会（執行部協議会、各委員会）
- 12月11日(金) 10:30~12:00 全農薬受発注システム利用メーカー協議会総会

### 「植防関係団体」

- 5月20日(水) 令和8年度 クロップライフジャパン 総会
- 6月12日(金) 令和8年度 日本植物防疫協会 総会
- 6月16日(火) 令和8年度 緑の安全推進協会 総会（AM）
- 6月16日(火) 令和8年度 残留農薬研究所 評議員会（PM）
- 6月17日(水) 令和8年度 農林水産航空・農業支援サービス協会 総会
- 11月11日(水) 16:00~18:30 クロップライフジャパン虫供養（浅草寺）



フクジュソウ

## 組合からのお知らせ

### 1. 2026年度クロップライフジャパン賀詞交歓会

日時：2026年（令和8年）1月6日（火）12：30～

場所：経団連会館（千代田区大手町）

出席者：鈴木 参事、植草 技術顧問

クロップライフジャパンは、2026年賀詞交歓会を行った。農林水産省、農薬メーカー、学識経験者、関係団体など関係者約330人が集まった。

岩田会長（日本農薬株式会社）は開会挨拶で次のように述べた。

「2025年の国内農業は記録的な高温や集中豪雨により厳しい一年でした、各地で農業被害の被災者へのお見舞いの意を示します。

米不足による米価上昇と増産の中、農薬を含む病害虫防除の重要性が改めて認識された年でもあり関係者の適切な防除対応により一定の成果が得られたと評価します。

食料・農業・農村基本計画に触れ、農薬は食料供給困難事態対策においても重要な資材に位置付けられている。クロップライフジャパンとしては、研究開発投資を通じたイノベーションの推進、科学的根拠に基づく情報発信、国際的な連携強化を進め、日本と世界の食料安全保障と持続可能な農業への貢献を目指す、関係者の発展と新年の飛躍を祈念します。」

続いて、農林水産省消費・安全局の坂勝浩局長が来賓代表として挨拶、乾杯の発声は佐藤祐二副会長（日産化学株式会社 専務執行役員）、中締めは井上雅夫副会長（住友化学株式会社 執行役員）がそれぞれ務め、盛会のうちに終了となった。



挨拶される岩田会長



坂勝浩 局長



佐藤祐二 副会長



井上雅夫 副会長

## 2. クロップライフジャパンと全農薬との情報交換会

日時：2026年1月21日（水）16：00～17：30

場所：全国農薬協同組合 新事務所会議室（千代田区神田東松下町）

出席者：クロップライフジャパン（8名）

（岩田会長、大島副会長、佐藤副会長、井上副会長、松浦専務理事、  
井ノ下運営委員長、西松事務局長、大西業務部長）

全国農薬協同組合（8名）

（栗原理事長、木幡副理事長、青木総務委員長、伊藤経済活動委員長、  
中村IT・広報委員長、山本理事、鈴木参事、植草技術顧問）



議 題：

「挨拶」  
クロップライフジャパン  
（岩田会長）

全国農薬協同組合  
（栗原理事長）

### 「協議事項」

1. 2025年度事業報告及び  
2026年度事業計画
  - (1) クロップライフジャパン
  - (2) 全国農薬協同組合
  - (3) 新年度の取り組みに関する  
意見交換
  
2. 最近の農薬業界を取りまく状況について情報の共有化
  - (1) クロップライフジャパンからの情報発信
  - (2) 全国農薬協同組合からの情報発信
  - (3) その他



\*情報交換会終了後には懇談会を開催し、大盛況のうちに幕を閉じました。例年の通り、日本酒は大変ご好評をいただき、親睦は一層深まりました。

### 3. 日本植物防疫協会シンポジウム

#### 「温暖化がもたらす新たな病害虫発生リスクを考える」

日時：2026年1月22日（木）10：00～17：30

場所：北とぴあ つつじホール（東京都北区）

開催形式：会場での参加（200名）、オンラインでの参加（970名）

参集範囲：国及び都道府県の行政・試験研究機関、普及指導機関、独立行政法人、  
大学、JA、農薬企業、防除機企業および関係団体

趣旨：我が国では、2000年以降年々気温の上昇が認められ、特に2025年の夏は日本の観測史上前例のない猛暑となった。高温による農作物への影響は大きく、稲・果樹・野菜のいずれもが暑さの影響による収量、品質低下を招いている。同時に病害虫の発生様相も年々変化しており、各種病害虫発生の早期化、発生地域の北上、世代数増加による発生量の増加により注意報・警報が各地で出されている。さらに新たな病害虫の発生・定着の危険性も高まりつつある。そこで本シンポジウムでは、高温等の気象変化による病害虫の発生について関係者と情報共有し、農業現場がどのように対応していくべきかを考える。

開会挨拶：早川 理事長

「昨年は夏場の平均気温が観測史上最高を記録するなど、猛暑が農作物へ及ぼす影響は大きく、収量・品質の低下を招いている。また、病害虫については、発生様相が年々変化するとともに、発生の早期化、発生地域の北上、世代数増加による発生量の増加が見られ、その結果、注意報・警報の発表が増えている。このような状況を踏まえ、本日のシンポジウムでは「温暖化がもたらす新たな病害虫発生リスクを考える」というテーマで、高温等の気象変化による病害虫の発生状況及びそれに対して農業現場がどのように対応していくべきかについて考えてみたいと思う。本シンポジウムがこれらの問題を考える機会となることを期待する。」と挨拶された。



#### プログラム

(1) 今年の気候変動と病害虫の発生

農林水産省消費・安全局植物防疫課 春日井 健司 氏

(2) 温暖化がもたらす畑作病害の発生リスクに関するトピックス

農研機構本部事業開発部 竹内 徹 氏

(3) 温暖化による海外飛来性害虫の飛来・発生動向への影響と防除対策

農研機構植物防疫研究部門 眞田 幸代 氏

(4) 果樹カメムシ類の近年の発生動向と防除

農研機構植物防疫研究部門 三代 浩二 氏

(5) 温暖化が引き起こすリンゴ病害の動態変化と防除上の課題

青森県産業技術センターりんご研究所 平山 和幸 氏

(6) 近年のシロイチモシヨトウの多発要因を探る

～発生生態と防除の実際と現場の課題～

京都府農林水産技術センター 徳丸 晋虫 氏

### パネラーによる情報提供・紹介

本シンポジウムでは、6題の講演のほか、講演者にパネラーとして猫塚修一氏（岩手県病害虫防除所）、岡崎一博氏（福島県農業総合センター）、清水 健氏（千葉県農林水産部）を加えた9名による総合討論が行われた。



### 総合討論

日植防富田専務の進行により総合討論が行われ、今後も温暖化は進み、これまでとは異なる病害虫の発生が予想され、これらに対する確かな予察、診断、防除を行っていく必要があるという点で一致がみられた。そのため、発生予察を適時に農家が受け取れる方法、的確な予察、診断、防除が行える指導者や自ら発生を把握できる農家の育成などの課題があげられた。これらの課題解決のために協会も考えていきたい、として総合討論を締めくくった。

#### 4. 2026年度 中国・四国地区会議

開催日時：2026年（令和8年）2月3日（火） 11：00～16：25

開催場所：岡山セントラルフォレスト3号館（岡山市北区本町）

出席者：木幡副理事長、田中理事（中国地区長）、喜多理事（四国地区長）、  
金井理事、組合員33名、賛助会員16名、講師等5名、事務局2名  
計60名

定刻になり、司会の金井理事より開会が宣言され、下記のとおり会議が進行した。



金井 理事

- ・開会挨拶：中国地区長 田中 理事
- ・挨拶と全農薬の概況報告：木幡 副理事長



田中 地区長



木幡 副理事長

- ・安全協活動について（2026年事業計画等）：  
四国地区 住江 常任幹事（アグリビジネス高知株）  
中国地区 久角 常任幹事（三笠産業株）



住江 常任幹事



久角 常任幹事

- ・指導農薬の説明：  
プリグロックスL安全対策協議会  
井川 真一 様（シンジェンタジャパン株）  
クロルピクリン工業会  
雑賀 徹 様（南海化学株）

- 「植防関係及び農薬関係行政の情勢について」  
中国四国農政局消費・安全部農産安全管理課  
佐田 暁典 様



佐田 氏（農政局）

- 「押さえておきたい乾田直播栽培の基本技術」  
農研機構西日本農業研究センター  
中山間営農研究領域地域営農グループ  
上級研究員 藤本 寛 様



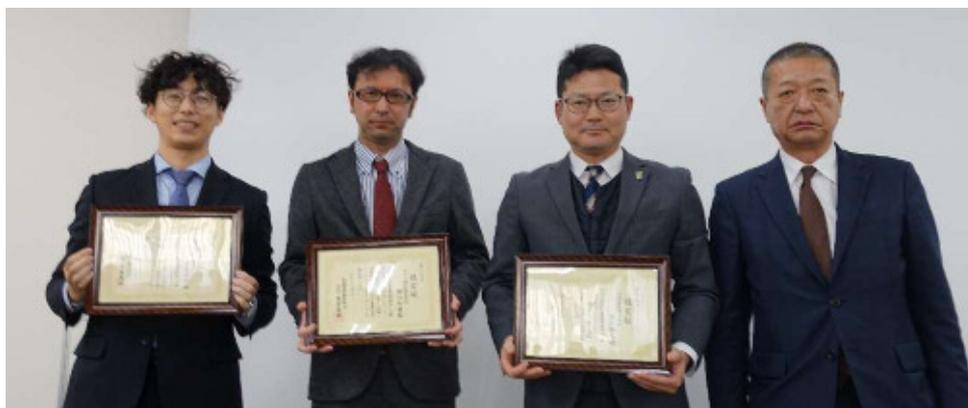
藤本 氏（農研機構）

- 「水田・畑地の雑草防除について（仮題）」  
日本植物調節剤研究協会近中四研究センター  
所長 大島 匡郎 様



大島（植調協会）

- 農薬安全コンサルタントリーダーへ認定書の授与  
野口 和磨（カネコ種苗株式会社 広島支店）  
新谷 和久（大信産業株式会社）  
吉見 尚記（株式会社ヨシミ）
- 農薬安全コンサルタントリーダー挨拶



吉見 氏、野口 氏、新谷 氏代理、木幡 副理事

- 閉会挨拶：四国地区長 喜多 理事

安全協幹事の皆さんに受付等をお手伝いいただきました。  
ありがとうございました。



喜多 地区長

## 5. 2026年度 近畿地区会議

開催日時：2026年（令和8年）2月4日（水） 11：00～16：25

開催場所：大阪ガーデンパレス（大阪市淀川区西宮原）

出席者：栗原理事長、金田監事（地区長）、橋爪遼太郎（理事代理）、  
組合員12名、賛助会員17名、講師等5名、事務局2名  
計39名

定刻になり、司会の理事代理 橋爪遼太郎氏より開会が宣言され、下記のとおり会議が進行した。



司会 橋爪 氏

- 開会挨拶：  
近畿地区長 金田 理事
- 挨拶と全農薬の概況報告：  
栗原 理事長



地区長 金田 監事

- 安全協活動について（2026年事業計画等）：  
近畿地区 金田理事（近畿地区常任幹事兼務）

- 指導農薬の説明：  
プリグロックスL安全対策協議会  
井川 真一 様（シンジェンタジャパン(株)）  
クロルピクリン工業会  
新美 達生 様（事務局長）



栗原 理事長



渡壁 氏（農政局）

- 「農薬行政及び植物防疫を巡る状況」  
近畿農政局消費・安全部農薬管理課  
渡壁 文音 様

- 「近年、兵庫県で話題になっている害虫と対策について」  
兵庫県農林水産技術総合センター農業技術センター  
病害虫部 課長 田中 雅也 様



田中 氏（兵庫県）

- 「兵庫県におけるイネばか苗病の薬剤感受性低下とその対策について」

兵庫県農林水産技術総合センター農業技術センター  
病害虫部 主任研究員 松本 純一 様



松本 氏（兵庫県）

- 農薬安全コンサルタントリーダーへ認定書の授与  
栗原理事長より認定書の授与  
村瀬 勉（イノチオプラントケア㈱）
- 農薬安全コンサルタントリーダー挨拶



村瀬 氏、栗原 理事長

- 閉会挨拶：栗原理事長

安全協幹事の皆さんに受付等をお手伝いいただきました。

ありがとうございました。



栗原 理事長

## 6. 2026年度 東海地区会議

開催日時：2026年（令和8年）2月5日（木） 11：00～16：25

開催場所：メルパーク名古屋（名古屋市東区葵）

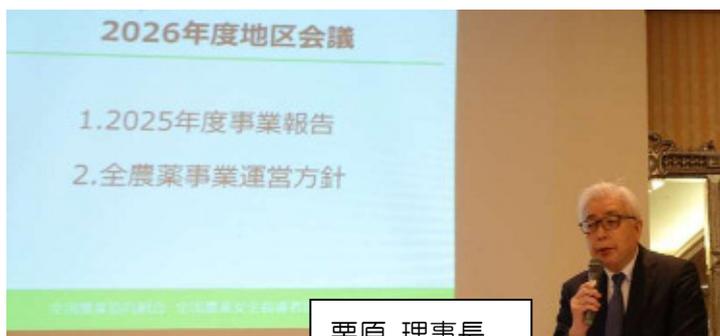
出席者：栗原副理事長、鈴木地区長、村上理事、組合員31名、  
賛助会員18名、講師等7名、事務局2名  
計61名



司会 村上 理事

定刻になり、司会の村上理事より開会が宣言され、下記のとおり  
会議が進行した。

- ・開会挨拶：鈴木 地区長
- ・挨拶と全農薬の概況報告：栗原 理事長



栗原 理事長



鈴木 地区長

- ・安全協活動について（2026年事業計画等）：  
東海地区 田中 安全協常任幹事  
（東海物産㈱三重支店）



田中 常任幹事

- ・指導農薬の説明：  
プリグロックスL安全対策協議会  
神戸 基 様（OAT アグリオ㈱）  
クロルピクリン工業会  
新美 達夫 様（事務局長）



鈴木 氏（農政局）

- ・「農薬及び植物防疫関係行政を巡る状況」  
東海農政局 消費・安全部 農産安全管理課  
鈴木 淳平 様（植物防疫関係）  
玉井 彩花 様（農薬関係）



玉井 氏（農政局）

- ・「三重県における水田雑草の発生状況と近年注目されるアカバナ科外来雑草の特徴や生態」

三重県中央農業改良普及センター 普及企画室  
地域農業推進課 主査 大野 鉄平 様



大野 氏（三重県）

- ・「IPMのイノベーションを支える化学農薬」  
－新たな視点のIPM 総論と化学的防除－  
東京農業大学 山本 敦司 様

- ・農薬安全コンサルタントリーダーへの認定書の授与  
農薬安全コンサルタントリーダー挨拶

石黒 知矢  
(東海物産(株)  
名古屋支店)

鈴木 昌樹  
(株金星商会)

後藤 晃寛  
(東海物産(株))



山本 氏（東京農大）



鈴木 氏      後藤 氏      栗原 理事長      石黒 氏

- ・閉会挨拶：村上理事

安全協幹事の皆さんに受付等をお手伝いいただきました。  
ありがとうございました。



村上理事

## 7. 2026年度 北陸地区会議

開催日時：2026年（令和8年）2月10日（木） 11:00～16:25

開催場所：石川県地場産業振興センター新館（金沢市鞍月）

出席者：木幡副理事長、中村理事（地区長）、組合員54名、賛助会員15名、  
講師等5名、事務局2名  
計78名

定刻になり、司会の中村理事より開会が宣言され、下記のとおり会議が進行した。

- ・開会挨拶：東海・北陸地区長 中村 理事
- ・挨拶と全農薬の概況報告：木幡 副理事長



地区長 中村 理事



木幡 副理事長



家城 富山県支部幹事



中村 石川県支部幹事



宮越 福井県支部幹事

- ・安全協活動について（2026年事業計画等）：  
富山県 家城 幹事（㈱石沢商事）  
石川県 中村 安全協幹事（日栄商事㈱）  
福井県 宮越 安全協幹事（㈱上田五兵衛商店）

- ・指導農薬の説明：プリグロックスL 安全対策協議会  
神戸 基 様（OAT アグリオ株式会社）  
クオルピクリン工業会  
新美 達夫 様（事務局長）

- ・「植物防疫及び農薬関係行政の情勢について」

北陸農政局 消費・安全部

農産安全管理課 覺間 誠 様



覺間 氏（農政局）

- ・「農業を取り巻く情勢の変化」

富山県農林水産総合技術センター

農業研究所栽培研究課

副所長 小島 洋一郎 様



小島 氏（富山県）

- ・「2018年に行われた農薬取締法の一部改正について」

クロップライフジャパン

技術部長 横田 篤宜 様

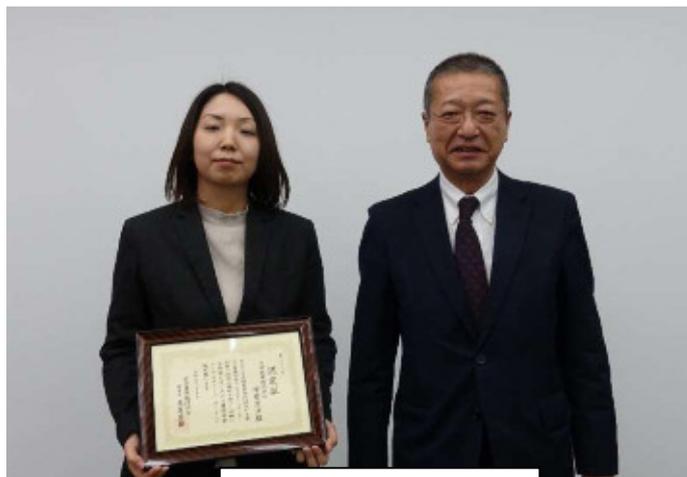


横田 氏（CLJ）

- ・農薬安全コンサルタントリーダーへの認定書の授与

栗原 副理事長より認定書の授与

増 愛里沙（日栄商事株）



増 氏、木幡 副理事長

- ・閉会挨拶：中村理事



安全協幹事の皆さんに受付等をお手伝いいただきました。  
ありがとうございました。

## 8. 2026年度 東北地区会議

開催日時：2026年（令和8年）2月17日（火） 11:00~16:25

開催場所：ホテルメトロポリタン盛岡（盛岡市盛岡駅前通）

出席者：栗原理事長、池田理事（地区長）、組合員40名、

賛助会員20名、講師等5名、事務局2名

計69名

定刻になり、司会進行の橋本氏（㈱池田）より開会が宣言され、下記のとおり会議が進行した。



司会 橋本氏



地区長 池田 理事

・開会挨拶：東北地区長 池田理事

・挨拶と全農薬の概況報告：栗原理事長



栗原 理事長

・安全協活動について（2026年事業計画等）：  
鈴木 常任幹事（㈱ケーエス）

・指導農薬の説明：  
プリグロックスL安全対策協議会  
中村 公久 様(OAT アグリオ㈱)  
クロルピクリン工業会  
朝比奈和雄 様(日本化薬㈱)

・「農薬取締法及び農薬関係行政について」  
東北農政局消費・安全部農産安全管理課  
秋葉 康平 様



鈴木 常任幹事



秋葉氏（農政局）

- 「化学農薬使用量(リスク換算)の試算に基づく今後の防除について」

岩手県病害虫防除所次長 猫塚 修一 様



猫塚 氏 (岩手県)

- 「水稻高温対策についてとケイ酸肥料について」

秋田県立大学名誉教授 金田 吉弘 様



金田 氏 (秋田県立大)

- 農薬安全コンサルタントリーダーへの認定書の授与

栗原 副理事長より認定書の授与

武田 龍弥 (株池田)

農薬安全コンサルタントリーダー挨拶



武田 氏、栗原 理事長

- 閉会挨拶：岩手農蚕(株) 社長 松田 和秀 様

安全協幹事の皆さんに受付、資料配布等をお手伝いいただきました。

ありがとうございました。



閉会挨拶 松田 氏

## 9. 2026年度 関東・甲信越地区会議

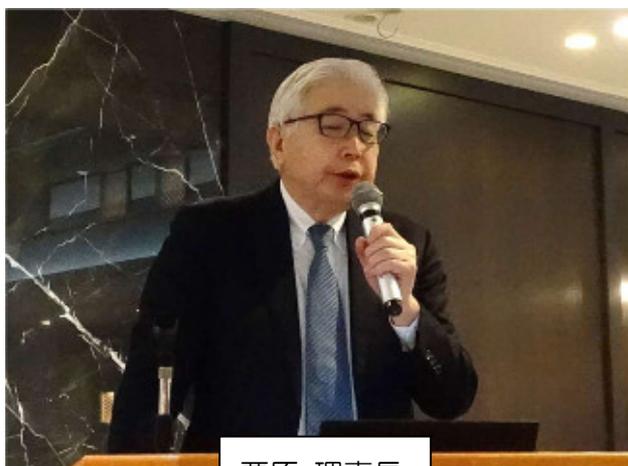
開催日時：2026年（令和8年）2月18日（水） 11:00～16:25

開催場所：東京ガーデンパレス（文京区湯島）

出席者：栗原理事長、伊藤理事（関東地区長）、佐藤友紀監事（甲信越地区長）、  
組合員41名、賛助会員25名、講師等6名、事務局2名  
計77名

定刻になり、伊藤地区長より開会が宣言され、下記のとおり会議が進行した。

- ・開会挨拶：関東地区長 伊藤 理事



栗原 理事長



地区長 伊藤 理事

- ・挨拶と全農薬の概況報告：栗原 理事長
- ・安全協活動について（2026年事業計画等）：  
関東地区 高坂 常任幹事（カネコ種苗(株)）  
甲信越地区 湯舟 常任幹事（株アセラ）



高坂 常任幹事

- ・指導農薬の説明：  
プリグロックスL安全対策協議会  
平田 明靖 様  
（シンジェンタジャパン(株)）  
クロルピクリン工業会  
谷川 廣晴 様  
（三井化学クロップ&  
ライフソリューション(株)）



湯舟 常任幹事

・「植物防疫行政及び農薬関係行政について」

関東農政局 消費・安全部

農産安全管理課

清水 雄哉 様（植物防疫関係）

木村 恭子 様（農薬関係）



清水 氏（農政局）

・「栃木県におけるイチゴ栽培の総合防除」

栃木県農政部経営技術課技術指導班

革新支援専門員 春山 直人 様



春山 氏（栃木県）



木村 氏（農政局）



浅野 氏（新潟県農業共済組合）

・「組合が取り組む水稻防除の現状」

新潟県農業共済組合 第一事業部

部長 浅野 勝 様



・農薬安全コンサルタントリーダーへの認定書の授与

栗原理事長より認定書の授与

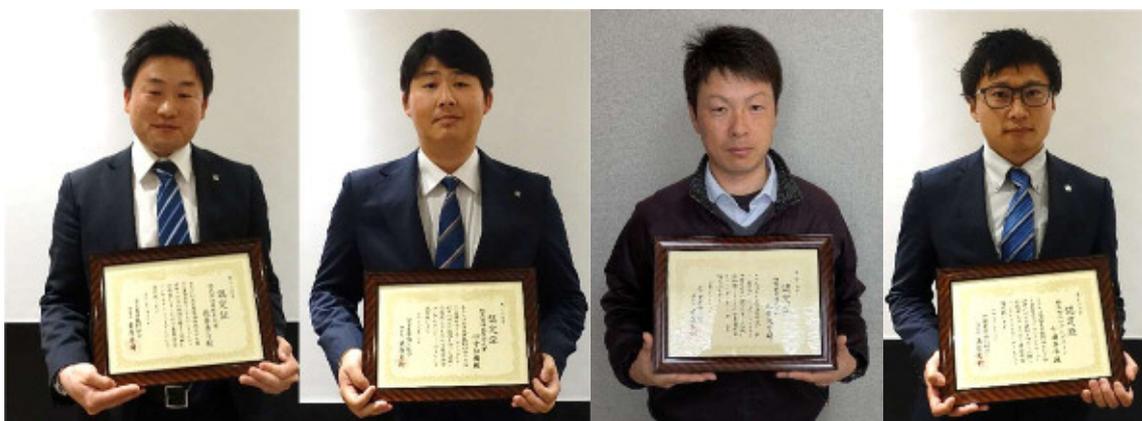
我妻 勇斗（株栗原弁天堂）

田中 和樹（株栗原弁天堂）

武井 大介（海野薬品株）

中田 昇平（株アグログリーン）

農薬安全コンサルタントリーダー挨拶



我妻 氏

田中 氏

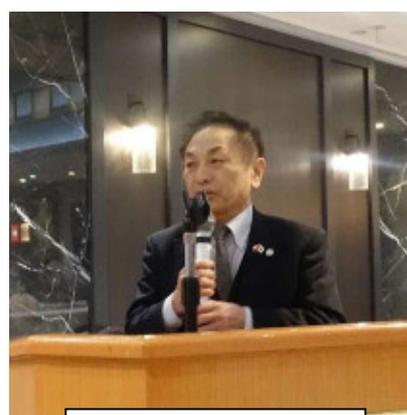
武井 氏

中田 氏

・閉会挨拶：地区長 佐藤 友紀 監事

安全協幹事の皆さんに受付、資料配布等をお手伝いいただきました。

ありがとうございました。



地区長 佐藤 監事

## 10. 2026年度 全農薬・安全協地区会議・農薬技術研修会（北海道地区）

開催日時：2026年（令和8年）2月19日（木） 10:00～16:50

開催場所：札幌自治労会館 3階中ホール（札幌市北区）

出席者：木幡 副理事長（北海道農薬卸協同組合理事長）、組合員56名、  
賛助会員28名、講師等10名  
計95名

- ・全農薬の概況報告：木幡 副理事長
- ・指導農薬について：  
プリグロックスL安全対策協議会  
等 祥悟 様（OAT アグリオ(株)）  
クロルピクリン工業会  
新美 達生 様（事務局長）

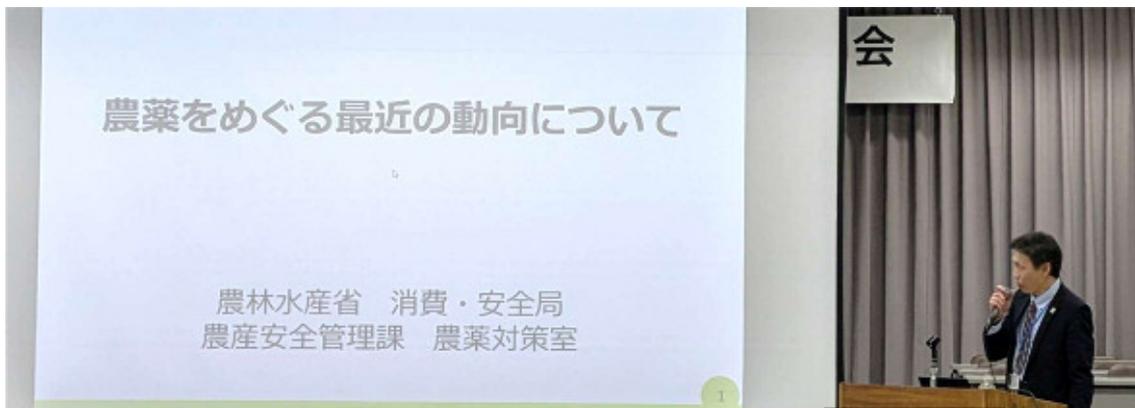
- ・安全協北海道地区会議：安全協北海道支部

### ○ 研修会

- ・開会挨拶：北海道農薬卸協同組合 木幡 理事長
- ・「農薬をめぐる最近の動向について」  
農林水産省消費・安全局  
農産安全管理課農薬対策室  
農薬対策室長 宇井 伸一 様



木幡 副理事長



宇井 室長

- 「気候変動時代を勝ち抜く 北海道農業に活かす気象予報」  
三井化学クropp&ライフソリューション株式会社  
取締役常務執行役員 気象予報士 宮井 俊樹 氏



宮井 氏

- 農薬安全コンサルタントリーダー認定書の授与  
木幡 副理事長より認定書の授与  
木島 航 (株コハタ)



木島 氏、木幡 副理事長



小松 氏

- 「令和 8 年に特に注意を要する病害虫」  
地方独立行政法人北海道立総合研究機構  
農業研究本部中央農業試験場  
病虫部長 小松 勉 様

- 挨拶：北海道農政部生産振興局技術普及課  
課長補佐 高橋 良幸 様

- 閉会挨拶：北海道農薬小売商組合理事長  
寺岡 英明 様



高橋氏 (農政部)

## 11. 2026年度 九州地区会議

開催日時：2026年（令和8年）2月25日（水） 11：00～16：25

開催場所：熊本城ホール（熊本市中央区桜町）

出席者：栗原理事長、安武理事（地区長）、今村理事、組合員41名、

賛助会員16名、講師等8名、事務局2名

計70名

定刻になり、司会の安武地区長より開会が宣言され、  
下記のとおり会議が進行した。

- ・開会挨拶：今村 理事



地区長 安武 理事

- ・挨拶と全農薬の概況報告：栗原 理事長



栗原 理事長



今村 理事

- ・安全協活動について（2026年事業計画等）：

九州地区 山内 常任幹事（グリーンテック株）

- ・指導農薬の説明：

ブリグロックスL安全対策協議会 平田 明靖 様

（シンジェンタジャパン株）

クロルピクリン工業会 事務局長 新美 達生 様



山内 常任幹事



ブリグロックスL安全対策協議会  
平田 氏



クリルピクリン工業会  
新美 氏

・「農薬行政を巡る状況」

九州農政局消費・安全部農薬管理課

宮田 優大 様(植防関係)

遠山 隆幸 様(農薬関係)



遠山 氏 (農政局)

・「農薬の適正使用と総合防除 (IPM) について」

公益社団法人 緑の安全推進協会

委嘱講師 吉岡 弘夫 様



吉岡 氏 (緑安協)

・「最近のイネウンカ類の発生状況と防除対策について」

農研機構 植物防疫研究部門

基盤防除技術研究領域

海外飛来性害虫・先端防除技術グループ

松村 正哉 様



松村 氏 (農研機構)

・農薬安全コンサルタントリーダーへ認定書の授与

中川 誠 (ヒノマル株)

多田隈 成道 (ヒノマル株)

上野 亮 (ヒノマル株)

徳永 純也 (ヒノマル株)

内田 大樹 (グリーンテック株大分営業所)

湯ノ谷 孔明 (グリーンテック株鹿児島営業所)

農薬コンサルタントリーダー挨拶



・閉会挨拶：地区長 安武 理事



安武 地区長

安全協幹事の皆さんに受付、資料配布等をお手伝い  
いただきました。

ありがとうございました。

## 12. 第 105 回植物防疫研修会（農薬安全コンサルタント資格） 報告

安全協農薬安全コンサルタントの資格試験となる植物防疫研修会（日本植物防疫協会主催）の第 105 回が下記のとおり開催された。

この研修会は全国農薬協同組合、クロープライフジャパンの関係者及び植物防疫に携わる方々が受講し、今回は全国から 62 名が受講し、このうち全農薬組合員からは 26 名の受講となった。

### 1. 研修会実施内容

- (1) 日時：2026 年 2 月 2 日(月)13:30 ～ 6 日(金)15:30
- (2) 研修生：62 名
- (3) 講師：農林水産省消費・安全局の担当官、農林水産消費安全技術センター（FAMIC）、農薬検査部の専門官、農研機構の各部門の専門家、薬剤に関する内容については、農薬会社や日本植物調節剤研究協会の専門家。  
カリキュラムは 104 回と同様
- (4) テキスト：各講師作成の講義パワーポイントの印刷物、「農薬概説」
- (5) 交流会： 地下小会議室で実施

### 2. 実施結果

- (1) 体調不良で受験・採点后すぐに帰宅した受講生が 1 名いたが、その他は問題なし。
- (2) 交通機関等に支障はなく講師・研修生とも問題なかった。
- (3) 今回試験問題は前回と同じにする予定であったが、FAMIC より 1 問変更したい申し出があったので変更した。試験の平均点は過去とほぼ同等の 81.4 点であった。

### 3. 修了試験結果

- (1) 受験者：62 名 合格者：58 名

4. 試験結果に基づき、合格者には日本植物防疫協会理事長名による「修了証」を授与された。

また、修了者には全国農薬協同組合理事長名により「農薬安全コンサルタント認定証とバッジ」を授与した。



## 行政からのお知らせ

### 1. 「みどりの食料システム戦略」における「化学農薬使用量（リスク換算）」の2024年実績値

令和7年12月26日  
みどりの食料システム戦略グループ

「みどりの食料システム戦略」における「化学農薬使用量（リスク換算）」につきましては、2030年までに10%低減、2050年までに50%低減の目標を掲げ、各般の取組を進めているところですが、令和7年12月26日に農水省において「みどりの食料システム戦略本部」を開催し、化学農薬使用量（リスク換算）の2024年実績値を公表いたしましたので、お知らせいたします。

実績値は基準年（2019年度）と比べ19.9%減となり、2030年目標を達成しておりますが、取組の効果だけでなく、資材費上昇による買控え傾向も寄与したと考えておりますので、引き続き取組の推進にご協力いただきますよう、お願いいたします。

**化学農薬** 2050年までに、化学農薬使用量（リスク換算）の50%低減を目指す。  
2030年目標：化学農薬使用量（リスク換算）の10%低減を目指す。

調達
生産
加工・流通
消費

①総合的な評価

- 化学農薬使用量（リスク換算）については、土壌くん蒸剤代替技術等の産地実証や栽培マニュアル策定の支援等により、減少傾向。
- 2030年目標を達成しているものの、引き続き、総合防除の推進、有機農業の面的拡大、リスクのより低い化学農薬や抵抗性品種等の開発等を推進する必要。

②KPI達成に向けた進捗状況

基準値 (基準年)	各年度ごとの実績値					中間目標 2030年	最終目標 2050年	備考
	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年			
23,330 リスク換算値 (2019農業年度)	21,230 リスク換算値 (約9%減)	22,227 リスク換算値 (約4.7%減)	19,839 リスク換算値 (約15.0%減)	18,682 リスク換算値 (約19.9%減)		リスク換算で 10%低減	11,655 リスク換算値 (50%低減)	<small>【換算の仕向】</small> 農林水産省で農薬メーカー等に1年行っている調査の結果に基づき算出。  <small>【換算の注記】</small> ① 0.1有量域から1.0有量域に換算する際のリスク換算係数は1.0 ② 農薬の必要率を削減する際のリスク換算係数は0.5とする ③ ② A21（病害一日防除型）に準ずる、低リスクの防除薬剤

【参考となる指標】

③直近の実績の評価

2024年において、資材費上昇による農薬の買控え傾向に加え、化学農薬使用量（リスク換算）の大きい土壌くん蒸剤の使用低減が進んだこと等により基準年より5%減少、2030年目標を達成しているものの、取組の効果だけでなく、資材費上昇による買控え傾向も高与したと考えられることから、引き続き対策を進めていく必要がある。

④これまでの主な取組

- 総合防除：「総合防除実践ガイドライン」の策定（2025年9月）や、グリーンな栽培体系加速化事業を通じた土壌くん蒸剤代替技術等の産地実証支援及び栽培マニュアルの策定、農政局単位での総合防除の推進を目的とした説明会を開催
- 研究開発：不規則に飛翔する害虫の位置をAIが推測し、青色レーザー光で狙撃する一連の自動狙撃技術・装置を開発中。遠隔防除に向けた水稲の病害虫発生予測システム、環境低負荷型の化学農薬施用技術を開発中。品種開発については、いちぢ病抵抗性をもつ水稲、草質病抵抗性をもつかんしよ、病斑病や炭疽病等に抵抗性をもつてん菜等を開発中
- 有機農業：生産から消費まで一貫した地域ぐるみの有機農業の取組を支援
- 生物防除資材：生物防除資材の評価体制を整備（2022年6月）、評価ガイドラインを策定（2024年4月）。優先的に登録審査を実施する対象として、環境負荷低減に貢献する技術に関連する農薬を追加（2025年10月）
- バイオステイラント(BS)：BSの表示等のガイドラインを策定・公表（2025年5月）

⑤今後の対応

	2030年目標の達成に向けた課題	2030年までの対応策
技術	【総合防除】「予防・予防」に重点を置いた総合防除の一層の推進及び生産現場への浸透  【研究開発】レーザー狙撃装置の小型化  水稲の病害虫発生予測システムや、土壌くん蒸剤の深層施用等による化学農薬の使用量削減技術の社会実装  更なる耐病性品種の開発	各都道府県等による総合防除実践指標の実証・策定、広域型総合防除体制の整備、産地における総合防除体系の確立、病害虫発生予測の調査手法の高度化  大学等によりレーザー狙撃装置の小型化を実現し、移動ロボットに搭載可能なプロトタイプを開発  民間企業による発生予測システムを搭載したサービスの展開、深層施用技術を農機具メーカー等に技術移転し、実用化に向けた取組を後押し  産学官が連携し、根こぶ病抵抗性をもつハクサイやネコセンチュウ耐病性をもつトマト木等、更なる耐病性品種等の開発
	【有機農業】除草作業や病害虫防除の省力化	自動除草ロボット等開発された省力化技術の現地導入、病害虫抵抗性品種や生物防除資材等の新たな技術の開発・普及
推進活動	【農薬】生物防除資材等の審査の円滑化、防除ニーズに応じた新規農薬の速やかな上市  【BS】使用者がBSを安心して選択できる環境の整備	生物防除資材等の審査の円滑化に向けた更なる審査結果の蓄積、要点を整理、RNA農薬の取扱を整理  事業者等にBSガイドラインの内容を周知するとともに、遵守状況を把握

下記 HP にて本年度の取組実績、KPI の速報値等が公表されています。

<https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/midori/honbu.html>

## 2. 飼料及び飼料添加物の成分規格等に関する省令の一部改正について

7消安第 5217 号

令和 8 年 1 月 6 日

全国農薬協同組合理事長 殿

農林水産省消費・安全局

今般、飼料及び飼料添加物の成分規格等に関する省令の一部を改正する省令（令和 8 年農林水産省令第 1 号）が令和 8 年 1 月 6 日付けで公布されましたので、本改正内容について、貴管下関係者に対する周知徹底につき御協力をお願いします。

### 1 現行制度の概要

飼料の安全性の確保及び品質の改善に関する法律（昭和 28 年法律第 35 号）第 3 条第 1 項の規定に基づき、農林水産大臣は、農業資材審議会の意見を聴いて（同条第 2 項）飼料の成分規格を定めることができることとされており、当該成分規格は、飼料及び飼料添加物の成分規格等に関する省令（昭和 51 年農林省令第 35 号。以下「省令」という。）において定められている。

このうち、農薬の成分である物質については、省令別表第 1 の 1 の（1）のセ及びソにおいて、飼料の原料に含まれてはならない量（以下「飼料に含まれる農薬の残留基準」という。）が定められており、食品安全委員会による食品健康影響評価の結果や飼料中の農薬の残留試験の結果等を踏まえて、順次見直しを行っている。

### 2 改正の概要

省令別表第 1 の 1 の（1）のセに掲げる農薬の成分である物質のうち、クロルベンジレート、シフルトリン、デルタメトリン及びトラロメトリン、パラコート並びにフェニトロチオンについて、飼料に含まれる農薬の残留基準を改正する。なお、本改正については、農業資材審議会に意見を聴き、令和 7 年 2 月及び 3 月に適当である旨の答申を得ている。

### 3. クロルピリホスを含む農薬の回収について

7消安第 6351 号  
令和 8 年 1 月 30 日

全国農薬協同組合 理事長 殿

農林水産省消費・安全局  
農産安全管理課

農薬取締法（昭和 23 年法律第 82 号。以下「法」という。）第 18 条第 2 項の規定に基づき販売が禁止されている農薬（以下「販売禁止農薬」という。）については、法第 24 条の規定に基づきその使用も禁止されているところです。

今般、「残留性有機汚染物質に関するストックホルム条約」において、製造、使用等を原則禁止する物質にクロルピリホスを追加することが決定されたことを受け、我が国においては今夏にクロルピリホスを含む農薬を販売禁止農薬に追加する法令の改正を行うことを予定しています。このため、当該農薬について、当該改正により販売禁止農薬に追加された後に誤って使用されることを未然に防止するためには、農家等で保有されている当該農薬の回収を事前に進めていくことが望まれます。

については、当該農薬について、農家等の農薬使用者に対して下記の事項が周知されるよう、御協力をお願いします。

なお、アグロ カネショウ株式会社は、送料着払いで回収を受け付けることとしているため、農家等の農薬使用者からこれらの農薬について返品の要望があった場合には、取りまとめたうえでの発送を行う等の御協力をいただけるよう、貴組合の組合員を通じ、組合員の取引先である小売店に対し、周知方よろしくお取り計らい願います。

#### 記

- (1) クロルピリホスを含む農薬（別紙）は全て失効しており、かつ、有効期限が残存しているものは存在しないこと。
- (2) 当該農薬は、今後販売禁止農薬に追加される予定であり、追加された後にこれを使用することは、法第 24 条に抵触すること。
- (3) 当該農薬の販売が禁止された際には、法第 18 条第 4 項において製造者は、当該農薬を農薬使用者から回収するよう努めることと規定されていることを踏まえ、アグロ カネショウ株式会社が自主回収を開始していること。
- (4) このため、当該農薬を保有している場合は、当該農薬を購入した販売店又は最寄りの農業協同組合を通じてアグロ カネショウ株式会社へ返品すること。

クロルピリホスを含む農薬

農薬の種類	農薬の名称	登録番号
クロルピリホス乳剤	日産ダースバン乳剤 4 0	11584
	クミアイダースバン乳剤 4 0	11585
	日産ダースバン乳剤 1 0	13336
	ダースバン乳剤 4 0	14129
	サンケイダースバン乳剤 4 0	15645
クロルピリホス粒剤	ダースバン粒剤	19619
	日産ダースバン粒剤	19620
	サンケイダースバン粒剤	19621
	サンケイダースバンベイト	21269
	野菜ひろばC	22361
クロルピリホス粉粒剤	日産ダースバン微粒剤 F	14557
クロルピリホス水和剤	日産ダースバン水和剤 2 5	11582
	クミアイダースバン水和剤 2 5	11583
	ダースバン水和剤 2 5	14128
	ダースバン D F	19987
	ダースバン D F	22151
クロルピリホス ・フルシトリネート水和剤	日産レピスター水和剤	16570
	レピスター水和剤 D	16571
	サイアナミッドレピスター水和剤	16572
クロルピリホスくん煙剤	新富士ダースバンくん煙剤	15360
	日産ダースバンくん煙剤	15361
	ダースバンくん煙剤	15362
	新富士ダースバンくん煙剤	18068

#### 4. 農薬の使用に伴う事故及び被害の発生状況について（令和6年度結果）

令和8年1月30日

農林水産省消費・安全局

農産安全管理課農薬対策室

農林水産省では、厚生労働省と連携して、毎年、農薬事故や被害の実態調査を実施しています。このたび、令和6年度の調査結果を取りまとめましたので、過去5年の事故件数等の推移とあわせ掲載します。

1. 人に対する事故（原因別） （件（人））

原因	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
(1)マスク、メガネ、服装等の装備が不十分	2 (2)	2 (2)	4 (5)	1 (1)	3 (3)
(2)強風中や風下での散布等、自らの不注意により本人が暴露	2 (2)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
(3)長時間や高温時の作業、不健康状態での散布	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
(4)防除器具の故障、操作ミス、整備不良等による農薬のドリフトや流出	0 (0)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	1 (1)
(5)ドリフト防止対策の未実施等による農薬のドリフトや流出	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	2 (2)
(6)被覆が不十分であった等、農薬使用後の作業管理の不良	4 (6)	3 (11)	2 (16)	4 (11)	0 (0)
(7)保管管理不良等による誤飲誤食	8 (9)	6 (6)	4 (4)	9 (9)	5 (5)
(8)運搬中における容器の転落・転倒等の容器破損	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	2 (2)
(9)その他	0 (0)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	1 (2)
(10)原因不明	6 (6)	3 (3)	5 (5)	5 (31)	3 (3)
計	22 (25)	19 (27)	18 (33)	20 (53)	17 (18)

（件（人））

区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
死亡	農薬の使用	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	誤用	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)
	その他・原因不明	1 (1)	0 (0)	3 (3)	0 (0)
	小計	1 (1)	0 (0)	4 (4)	0 (0)
中毒	農薬の使用	8 (10)	8 (16)	8 (23)	5 (12)
	誤用	8 (9)	6 (6)	3 (3)	10 (10)
	その他・原因不明	5 (5)	5 (5)	3 (3)	5 (31)
	小計	21 (24)	19 (27)	14 (29)	20 (53)
計	22 (25)	19 (27)	18 (33)	20 (53)	17 (18)

（注）・集計した事故には、自殺は含まない。・区分欄の「農薬の使用」は、上記(1)～(6)が該当。・区分欄の「誤用」は、上記(7)～(8)が該当。

2. 農作物、家畜（蜜蜂※を除く）及び生活環境動植物等に対する被害 （件）

被害対象	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
農作物	12	8	11	24	7
家畜	0	0	1	1	0
蚕	0	0	0	0	0
魚類	9	5	5	1	4
その他	0	0	0	0	0
計	21	13	17	26	11

※ 農薬が原因の可能性がある蜜蜂被害事例については、都道府県による蜜蜂被害軽減対策の検証結果とあわせて別途公表している。

なお、平成21年度から、中毒発生時の状況や防止策などの詳細情報も掲載していますので、事故の防止に向けてご活用下さい。

## 5. 国内産農産物における農薬の使用状況及び残留状況調査の結果について (令和6年度)

令和8年2月12日  
農林水産省消費・安全局  
農産安全管理課農薬対策室

農林水産省は、農薬の適正使用を推進し、安全な農作物の生産に資すること等を目的として、農家における農薬の使用状況及び生産段階における農産物中の農薬の残留状況について調査を実施しています。この度、令和6年度の国内産農産物における農薬の使用状況及び残留状況について取りまとめましたのでお知らせします。

### (1) 農薬の使用状況について

237戸の農家（米穀については、無人マルチローターによる防除を行った農家を含む）に対し、記入簿への記入又は聞き取りを行うことで農薬の使用状況を調査しました。その結果、今回調査した全ての農家で農薬が適正に使用されていたことが確認されました。

表1：令和6年度の農薬の使用状況に関する調査結果

調査農家数	農薬の総使用回数	不適正使用のあった農家数	不適正使用の内容別の農家数				
			誤った作物に使用	誤った使用量又は希釈倍数で使用	誤った時期に使用	誤った回数で使用	その他の不適正使用
237	2,872	0	0	0	0	0	0

### (2) 農薬の残留状況について

237検体の農産物について、のべ1,331種類の農薬と作物の組合せの残留状況を調査しました。その結果、食品衛生法（昭和22年法律第233号）に基づく残留基準値を超える農薬を含んだ検体はありませんでした。

## 2. 調査結果を受けた対応

- (1) 都道府県にこの結果を通知し、引き続き、農薬の適正使用が徹底されるよう農家等への指導を実施する予定です。
- (2) 農薬の適正使用を推進するため、令和7年度も同様の調査を実施しています。

別添

[https://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n\\_monitor/attach/pdf/r6-1.pdf](https://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_monitor/attach/pdf/r6-1.pdf)

## 1. ウイロイドへの感染が作物の難防除病害「根頭がんしゅ病」の発病を抑制することを発見

2026年1月30日

### 概要

根頭がんしゅ病は、*Rhizobium radiobacter*や*Allorhizobium vitis*(以下、これらを根頭がんしゅ病菌)によって、植物の根や茎などに「がんしゅ」と呼ばれるこぶ(図1)を形成する病害で、世界中で発生しています。主に果樹類(リンゴ、ブドウ、ナシなど)、花き類(バラ、キクなど)、野菜類(トマト、ジャガイモなど)で発病し、生育不良や枯死の原因となります。

根頭がんしゅ病菌は土壌中に生息しており、感染した植物が枯死した後も、次に植栽した植物が再び病気になるなど、長期的な被害をもたらすため、農業生産現場にとって深刻な問題です。これらの菌は、植物にがんしゅを形成させる遺伝子を持ち、がんしゅの増殖により、植物の衰弱・枯死を引き起こします。一度発病すると、菌を除去してもがんしゅの増殖は止まらず、治療することは困難です。そのため、植物の根頭がんしゅ病への感染を予防することが重要です。

農研機構では、ウイロイドに感染した植物に他の病原体が侵入した際の相互作用を研究する中で、植物をウイロイドに感染させることで根頭がんしゅ病の形成率やがんしゅ直径が低下することを世界で初めて発見しました。本成果は、総合防除を推進していく上で、環境負荷の少ない農業技術として、ウイロイドを植物ワクチンとして利用する新しい研究開発につながる可能性を示しています。ただし、今回の試験で用いたウイロイドは病原性を有しており、植物ワクチンとして利用できません。今後は、植物ワクチンとして利用可能な弱毒化・無毒化ウイロイドの探索・開発が課題となります。



図1 ブドウで発生した根頭がんしゅ病

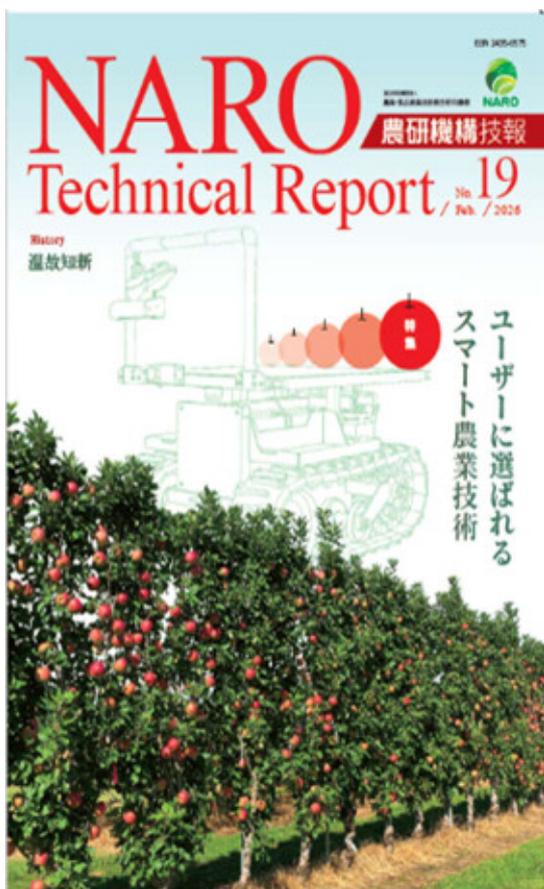
## 2. 特集「ユーザーに選ばれるスマート農業技術」 - 農研機構技報 -

2026年2月20日

### 概要

農研機構は、開発した研究成果を産業界、農業界、大学、マスコミなどの皆さまに発信し、新しい連携の開拓や成果の実用化を加速させるために「農研機構技報」(英名「NARO Technical Report」)を刊行しています。

第19号特集では、省力化に寄与するスマート農業技術開発の取り組みを紹介していますので、ぜひご覧ください。



### もくじ(No.19)

特集「ユーザーに選ばれるスマート農業技術」

特集によせて

- ① 両正条田植機と直交除草技術
- ② 東北地方における NARO 方式乾田直播の技術と普及の現状
- ③ 果菜類の施設生産における生育収量予測技術の活用
- ④ 気象データに基づくキャベツの生育予測技術とその活用事例
- ⑤ ほ場一筆ごとの肥効が見える化
- ⑥ 果樹栽培の機械化をめざして-省力樹形の開発とカラムナータイプリンゴの育成-
- ⑦ 荒廃農地再生とスマート放牧による中山間地域の省力的肉用子牛生産
- ⑧ 堆積型堆肥化における繰り返し作業の省力化を実現する堆肥化ロボット-ホイールローダの自動運転化-

(公開 URL)

[https://www.naro.go.jp/publicity\\_report/publication/laboratory/naro/naro\\_technical\\_report/172272.html](https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/laboratory/naro/naro_technical_report/172272.html)

## 全農薬ひろば

### ロウバイ（蠟梅、蝟梅、学名: *Chimonanthus praecox*）

ロウバイ科ロウバイ属に分類される落葉低木の一つである。

**名称:**「ロウバイ」の語源は、漢名の「蠟梅」とされる。花に強い芳香があり、英語では Wintersweet あるいは Japanese allspice と称される

**特徴:** 落葉性または半常緑性の低木から小高木であり、高さ 2~13 m になる。花期は冬であり、甘い香りがする黄色い花を多数つける。萼片と花弁の区別がなく、多数の花被片がらせん状につく。1 つの花から多数の果実ができるが、これが発達した花托で包まれて偽果を形成する。果期は 4~11 月。果実は瘦果、褐色、楕円形から腎形。花托が発達して 3~11 個の瘦果を包んで偽果である集合果を形成する。

**栽培:** 中国原産であるが、世界中の温帯域で観賞用に栽培されており、日本へは江戸時代初期に導入された。

**毒性:** 種子などはアルカロイド（カリカンチン）を含み有毒で、中毒するとストリキニーネ様の中毒症状を示す。花やつぼみなどを生薬とすることもあり、抽出された油は「蝟梅油」とよばれ、抗菌、抗炎症作用がある。日本では、牧場のヒツジの中毒死と考えられる例が報告されている。

**文化:** 小寒から立春の前日までの季語とされる。夏目漱石や芥川龍之介はロウバイを好んだとされ、ロウバイが登場する短編やエッセーを記している。



（一部 Wikipedia 等より引用）

撮影場所：藤沢市常立寺

花言葉：『慈愛』『ゆかしさ』『先見』  
『先導』『愛情』

